

大好き！絵本

初瀬 恵美



新緑の季節も通り過ぎ、早くも梅雨に入りましたね。今年、園では新たな取り組みとして畑の土づくりを始めることになりました。きっかけは、「菌ちゃん先生」こと、「吉田俊道」さんの土づくりの動画を園長が見て、その方法を学び、取り入れようとしたことでした。なんと！元気な野菜は人間にはおいしいけれど、虫たちにとっては嫌いな味になり虫がつきにくくなるのだとか…。そのため、無農薬で野菜を育てることができるようになるそうです。今まで「農薬を使用しなければ虫がくるのは当たり前。仕方がないよね～」と思ってきたのが、大間違いということを知り、目からうろこでした。また「おいしいから、虫もたべるんだよね～」と言っていたことも、大きな間違いであることも知りました。どうすれば、元気でおいしい野菜ができるのか。ずばり、それは「糸状菌(しじょうきん)」がカギとなり、糸状菌が好きな土づくりをすることでした。必要なものは、朽ち木や竹、落ち葉、もみ殻など。なんと当園の様に自然豊かな地域では、わざわざ購入しなくても周囲にあるものでできそうです。命が終わったものを菌ちゃんが、命いっぱい土に作りかえ、その土で野菜を育てると、栄養価も高く、おいしい野菜ができるそうです。すごいですよね！また脇に生えてきた雑草も光合成でできた栄養を土の中の菌ちゃんに送ってくれる役目をするので草刈りの必要もないなど、今までの常識が非常識となるお話がいっぱいでした。

その吉田さんが代表をされている「菌ちゃんふぁーむ」から発行され、吉田さん自身が監修されている絵本を今月ご紹介したいと思います。この絵本は、左開きが『ちきゅうのいきものたちと きんちゃん』、右開きが『からだをまもる きんちゃん』となっています。なんと一冊で、表と裏から読み進められる、2度おいしい、めずらしい絵本です！そして、2つの話の間には、吉田さんが絵本を作りたいと思ったきっかけが書かれていて、熱い思いを感じることができます。一度菌ちゃん先生の動画を見て頂くことができれば、地球や子どもたちの未来のことを深く考えて、熱い思いをもって農業の普及活動をされている方だとお分かりになられると思います。私からすると、とても尊敬できる方ですが、自称「すげべじい」とおっしゃられるほど、本当にユーマアがあり、面白い方です。

「幼児にわかるような菌ちゃんの本を作りたい」という吉田さんの想いと同じ想いを持つ方々と一緒に作られた絵本。ぜひご覧になっていただけたらと思います。土づくりに5年かかるといわれますが、作り始めて数か月で1回目の野菜を植えることはできそうです。上手いけば、少しずつ虫が減り、少しずつ野菜の味が変化してゆく畑となってくれることでしょう。その変化といっしょに、この絵本も楽しんでいきたいと思っています。

それでは、下に、絵本の内容を紹介します。



『ちきゅうのいきものたちと
きんちゃん』
ぶん:RIKA
え :すずき もも
かんしゅう:よしだ としみち
発行:(株)菌ちゃんふぁーむ

私たちの周りにはいっぱいの菌がいます。その菌のことを愛らしく「きんちゃん」とよび、土の中のきんちゃんを紹介しています。きんちゃんは「いいきん」も「わるいきん」もいて、どっちも大事な仲間！「いいきん」は分かるけど、なんで「わるいきん」も大切なんだろう？と思いませんか？それは、「いいきん」は、元気な命をより元気に、「わるいきん」は、弱った命を食べて新しい命につないでいるからだそうです。きんちゃんは、「命のリレー」をしながら、今日も地球を命でいっぱいにしてきているということ、優しく、あたたかな文で紹介してくれています。



『からだをまもるきんちゃん』
ぶん:RIKA
え :すずき もも
かんしゅう:よしだ としみち
発行:(株)菌ちゃんふぁーむ

「腸」を「おなか畑」に見立て、からだを守るきんちゃんとつながる大切さについて描かれた絵本です。「元気なおなか畑」は善玉菌と少しの悪玉菌が住んでいて、ふかふかあたたかいのだそうです。逆に「あれたおなか畑」は、固くて冷たく、うじゃうじゃ増えた悪玉菌でおなか畑は、くさっちゃうのだそうです。何を食べても、元気なおなか畑がつくれ、何を食べてもおなか畑があれちゃうのかも、絵と共に解説！さらに土や動物に触れたりすると出会えるちよい悪菌の大切さも語られ、菌ちゃんとつながって、からだと心を元気にする秘訣が優しく描かれています。